第104回大阪皮膚科医会例会・学術講演会
第22回日本臨床皮膚科医会大阪支部総会

プ ロ グ ラ ム

テーマ

乾癬におけるAhRの役割から考える外用療法

講師

九州大学病皮膚科・油症ダイオキシン研究診療センター准教授　**辻　学 先生**

日時：2026年2月14日(土)　午後３時40分開場

会場：サンケイホールブリーゼ

大阪市北区梅田2丁目4-9　ブリーゼタワー7F(大阪市北区)

【　会場ご案内図　】

共催　大阪皮膚科医会
　　鳥居薬品株式会社

大阪府医師会認定CCは15(臨床問題解決のプロセス)を2.5単位取得できます

プログラム

15:40	開場
16:00－16:30	医会連絡会・総会
16:30－16:45	製品説明（鳥居薬品株式会社）
16:45－18:15	講演（辻先生）
18:15－18:25	休憩
18:25－19:30	質疑応答
19:30－	情報交換会

企画主任より

尋常性乾癬は遺伝的要因と様々な環境要因が複雑に絡み合って発症し、皮膚の分化が亢進する疾患です。頭部、肘部、膝部、臀部などの間擦部や体に紅斑や鱗屑、痒みも伴います。皮膚だけでなく、関節炎やメタボリックシンドローム、心疾患（心筋梗塞）などのリスクが高まります。その他、ぶどう膜炎や炎症性腸疾患など全身の炎症、それ以外に、うつ病など精神疾患も伴うこともあります。

尋常性乾癬の患者様は痒みで悩まされたり、紅斑や鱗屑、頭部のフケなどで夏でも肌を見せにくいなど日常生活に制限を感じる人がいます。また、生涯にわたる治療が必要で長期間の外用による精神的負担や一部、生物製剤などによる経済的負担もあります。実際、日常診察の中で長期間にわたる治療により、治療が負担となり、治療を諦め、無治療で悪化し受診される患者様もいます。

尋常性乾癬の治療はステロイド外用剤、ビタミンＤ製剤、ステロイド・ビタミンＤ配合剤や紫外線療法、エトレチナート内服やシクロスポリン内服が中心でした。その後、生物製剤が登場し、アプレミラストやTYK２阻害薬が出現し、重症な尋常性乾癬患者様でも劇的な改善を期待できるようになりました。

しかし、尋常性乾癬の治療の基本は外用薬です。今回の例会では、九州大学病院・油症ダイオキシン研究診療センター准教授 辻学先生に乾癬におけるAhRの役割から考える外用療法という演題でお話頂きます。乾癬の外用薬はステロイド・ビタミンＤ配合剤が主体でした。AhRはこれらの外用薬とは違う新しい機序で抗炎症作用、抗酸化作用、皮膚バリア機能が改善する作用があります。尋常性乾癬の外用薬の使い分け、また新しい使い方などの選択肢ができ、今後の乾癬治療について診察の幅が広がるのではないかと考えています。多くの先生方のご来場、ご視聴をお願いいたします。

企画主任：松田　洋昌　　講演座長：幾井　宣行、北村　浩之

乾癬におけるAhRの役割から考える外用療法

九州大学病院皮膚科・油症ダイオキシン研究診療センター
辻　　学

抄録：
乾癬は、IL-23/IL-17軸を中心とした炎症、さらに再燃に関与するresident memory T細胞（TRM）の活性化など、多層的な病態を有する慢性炎症性疾患です。近年、芳香族炭化水素受容体（Aryl hydrocarbon Receptor:AhR）が、表皮分化の調節、抗酸化シグナルの誘導、炎症性サイトカインの抑制、さらに制御性Ｔ細胞（Treg）の誘導やTRM活性の制御に関わることが明らかとなり、乾癬病態の新たな治療標的として注目されています。

タピナロフは、AhRを介した抗炎症作用・抗酸化作用・皮膚バリア機能の改善を特徴とする非ステロイド外用薬であり、国内第３相試験ではPASI・PGAともに良好な治療成績が示されています。長期外用により効果が増強し、さらに外用中止後も一定期間寛解が持続することが報告されており、乾癬治療において新しい治療選択肢となりつつあります。

そこで、重要性が高まるのが「外用薬の適切な使い分け」です。ステロイド・ビタミンD３配合剤は速効性に優れ、特に痒みや炎症の強い局面で有用である一方、タピナロフはバリア機能改善や長期寛解維持に寄与する点が特徴です。頭皮、顔面、手掌・足底、陰部などのSpecial Areasでは、薬剤特性に応じた選択がQOL向上に不可欠となります。加えて、近年は全身療法との併用戦略も重要視されています。特にTYK２阻害薬とタピナロフとの併用は治療効果の増強が報告されています。また、生物学的製剤使用下の外用治療は、皮疹の残存・再燃の抑制に寄与し、長期寛解を支える要素としても位置づけられます。

本講演では、乾癬におけるAhRの役割を基盤として、タピナロフの薬理作用、外用療法の使い分け、全身療法との併用による治療最適化について、基礎研究での知見を基に考察したいと考えております。

※AhRとは…Aryl Hydrocarbon Receptor の略称で、日本語では「芳香族炭化水素受容体」です。

【略歴】

2002年３月：鳥取大学医学部医学科卒業

2007年４月：九州大学大学院医学系学府医学専攻博士課程

2011年４月：九州大学病院皮膚科　助教

2012年４月：Visiting Fellow, Dermatology Branch in NIH

2014年11月：九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター　助教

2017年４月：九州大学病院皮膚科　講師

2019年－現在：九州大学病院皮膚科・油症ダイオキシン研究診療センター　准教授

企画チーム：松田　洋昌、幾井　宣行、北村　浩之
会　　長：持田　和伸

大阪皮膚科医会事務局　〒532-0003
大阪市淀川区宮原4-1-4　KDX新大阪ビル４階
関西共同印刷所営業１課内　日下　敦 宛て
ＴＥＬ06-6453-3651

今例会はオンラインでも視聴していただけます。
事前登録が必要ですので、ご希望の方はタブレット／スマートフォンは
こちらの二次元バーコードをカメラで読み取って頂くか、
下記URLから事前登録をしてください。

【登録リンク】https://zoom.us/webinar/register/WN_NwfIRHXoT3GdPuWU_f3eKw
【ウェビナーID】961 7877 0223
【パスコード】326740